

平成13年度岡山市総合政策審議会都市・交通部会（第7回）の主な意見

- 1 日 時 平成14年2月15日（金）午後1時30分～4時17分
- 2 場 所 市役所3階第3会議室
- 3 出席者 委員13名中10名出席
（佐々木委員、中村委員、村上委員欠席）
岡山市：山内都市整備局長、広瀬まちづくり担当局長、
池上都市開発部長、青木公園緑地部長、小寺土木部長、
青山西部新拠点まちづくり推進本部長 ほか
事務局：高橋参事 ほか
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議概要
（1）傍聴の許可
（2）議題の説明、質疑応答及び事務連絡
- 6 主な意見

岡山市オムニバスタウン計画について

- 計画を実行に移すためには誰がリーダーシップをもって行うのかをはっきりさせておかなければならない。
- 事業者が中心になって動いていく形に将来は変わっていかなければならないが、計画が軌道に乗るまでは行政が先導していく必要がある。
- パーク・アンド・バスライドそのものを知らない人もおり、経路をバスの壁面に書くなどして、利用の促進につながるような工夫をしてほしい。
- 都市の公共交通を支え、守っていくという視点でも、利用者の立場にたって事業者が一層の努力を行わなければならないし、さらなる側面的支援も必要である。

「中期的な指針」について

- （1）岡山市の土地利用について [資料：都市計画課のHPへ掲載]

- 中心部にもっと緑を増やすことによって、町に統一的な感じを与えることができるのではないか。特にロータリーを中心として、目線よりも高い木を植えていくことはできないか。
- 親しみやすく、住んで楽しく落ち着くようなまちをつくるためには、専門家の助言により、誘導サインや道、公園などのまちのアクセサリーを上手にデザインしていくことが必要ではないか。
- 地域ごとの景観形成を考えていく中で、岡山市全体としてはどんなまちになるのかという視点をもつことが必要ではないか。
- 都市の風格を出すという点で都心部の緑化を進めていく必要がある。周辺部においては農地と市街地とのメリハリをうまくつけることが景観形成の大きなポイントである。

- 部分ではなく全体的なデザインの観点からの専門的なアドバイスを求めうるようなしくみを景観形成のシステムの中に組み入れておくべきではないか。
- 自然とか緑というものは放っておいてもシンボルにはなりうるが、今まで手がけてきたまちづくりにおいて、市民のころの中に共通にあるようなものを探し出す努力が足らなかったため、まちのシンボルが見つかっていないのではないか。例えば万成石などは岡山らしさがふわっといい薫りで出てくるような感じがするが、経済性などの問題もあって使い切れていない。効率性や経済性ばかり追求すると同じまちばかりになってしまう。
- まちなかで緑を増やすとしても、現実には市民の理解が得られない場合もある。どういうまちがよいまちなかを広く市民が理解し、意識していく必要があるのではないか。
- 商店街には岡山の城下町として栄えてきたところもあり、歴史的なものを再現していくなかで、景観形成やまちづくりを考えていくことはできないか。
- 景観というものは人間との距離においてヒューマンスケールになっている必要がある。「都の原風景」は緑と水の存在でどうにかヒューマンスケールに近づくことができ、その延長上に商店街などがあるのではないか。
- 景観の問題として商店街をとりあげるにしても、これを経済施策だけの問題として行政がとらえてはいけない。都心の活性化の解決は縦割り行政ではできない。
- まちづくりで一番大事なことは、市民性の根幹に「まちは自分たちの財産である。」という考えがしっかりと根付いていることである。
- 市民にまちづくりへの協力を求めて行くには、まず専門家集団に対して啓蒙をしっかりと行い、ひいては市民（施主）に正しく誘導がなされていくというのが早道ではないか。
- 都心部に岡山の顔というものが見られないなか、烏城や後樂園のあたりや岡山駅を中心にした通りを徹底的に手を入れていくことが必要であるが、地域の人たちが自らこういうまちにしたいという形にもっていくことが望ましい。そのためにも、いきなり規制をかけていくのではなく、都市景観マニュアルなどによって、このようなまちをつかっていこうという市民のコンセンサスができていけば、結果として条例制定につながっていくものであり、コンセンサスづくりに向けてステップを踏んでいくことが大切である。
- これからの時代は大きく派手でお金をかけた建築物は必要ない。公共の建物の発注にあたっては、その後の経営も考慮してほしい。ランドマークのような都市の威厳や力を示すようなものでなく、使うことによって愛着が育っていくようなものが望ましい。

（２）部会報告書（素案）について

- 今まで審議してきた内容を考えると、標題等は「土地利用」よりももっと広い意味を含む「まちづくり」という表現のほうが望ましい。
- 交通に関わる記述に重複点がみられるので整理をしてほしい。
- 現状認識については数値的な分析がしっかりできているが、それらに対する今後のあり方についてもある程度の数値目標等を示して将来の姿が目に見えるような形になることが望ましい。